

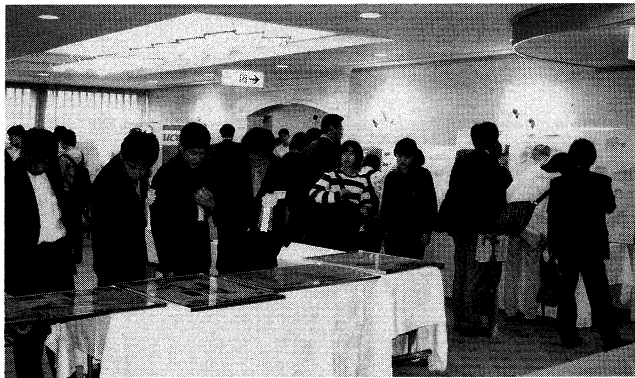
JIA 長野県クラブ 31

社団法人 日本建築家協会

1998. 7. 1



▲あいさつする出澤会長

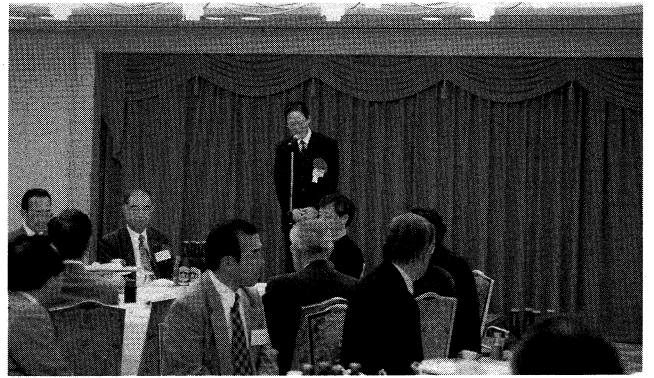


▲長野県学生卒業設計コンクール'98入賞作品展

’98 JIA 長野県クラブ 通常総会



▲建築ジャーナリスト中谷氏による記念講演会



▲懇親パーティーであいさつする服部支部長



私達の心を発信しよう

会長 出澤 潔

この度宮本忠長先生が日本建築家協会副会長に就任されました。更に重い荷を背負っていただくことになるわけですが、日本の建築界のためにご健勝で奮闘していただけるよう微力ながらお支えしたいと思います。

先の通常総会において、引き続き会の運営を担当するよう指名がありました。役員、会員の皆様と手を取り合って更に一層努力をしなければならないと考えています。どうか変わらぬご指導、ご協力をお願い申し上げます。

30数年前のことになりますが、昨年ご他界された吉村順三先生が「私はなぜ新宮殿から手を引くか」と題して朝日ジャーナル誌上に先生のお心を示されたことがありました。その中で先生は「建築家として最も嬉しいときは、建物ができ、そこへ人が入って、そこでいい生活が行われているのを見ることである。日暮れどき、一家の楽しそうな生活が感じられるとしたら、それが建築家にとって、最も嬉しいときなのではあるまいか」と建築家を志す心を教えて下さいました。以来、私は先生のお写真とこのお言葉を目の前に置いています。そして事ある毎にこの言葉を口にし、自分のために建築を創っていないだろうか、住む人のために、周りの人のために心から考えているだろうかと自分自身を戒めて参りました。

過日、私たちの会に出席された方が「この会はいい会

だね。皆さんと話していると晴れ晴れするよ。」とおっしゃって下さいました。本当に嬉しいことでした。

いまJIAが抱えている問題は山積んでいます。永年の懸案であった建築家資格制度は本年度大きな進展があるようですし、会の財務問題、会員増強、組織の活性化など、私達にとって真剣に取り組まなければならない大切な問題ばかりです。しかし、まず第一に大切なことは、会員皆様のそれぞれの心が地域の人々に伝わり地域社会から愛される存在になることではないでしょうか。そして、地域社会の方々から愛され求められる存在になるためには、私達一人一人がそれにふさわしい行動をとることが求められます。

過日開催された全国地域会合同会議では、地域会に期待することとして、地域住民・自治体・文化団体に協力し、地域社会に貢献することがあらためて確認されました。そのためには私達の存在を知っていただくことから始めなければならないと考えます。会員個々の地道な実践とともに、会として積極的な情報発信をしていかなければなりません。どのようなかたちで私達の心を地域の方々へ伝えることができるのか、皆さんのご意見をいただきたいと思ひます。

近代建築の真の意味

～通常総会記念講演より～

川上 恵一

(かわかみ建築設計室)

今年の通常総会記念講演会は、建築ジャーナリストの中谷正人氏をお呼びして、「近代建築の流れとこれからの方向」というテーマでお話を伺った。

当日は、恒例になった長野県学生卒業設計コンクールの表彰式もあって大勢の人が集まり会場は満員だった。

講演は、まず、近代建築の起こりと展開を数多くのスライドを足早に写しながらの説明で始まった。久しぶりにワーグナー、コルビュジェ、ミース、サーリネン等の名や作品が次々と紹介され、学生時代に戻って建築史の授業を受けたような気分になった。かつての巨匠達の作品群を見せられて、あらためて遠く足もとにも及ばないことを強く感じた。彼らの作品は、インターナショナルスタイルといいながらどこか地域性が潜んでいるのではないか。

中谷氏は、日本における近代建築への取り込み方をもう一度見直さなくてはいけないのではと語る。日本の近代建築は、誰でも真似ができる故に安易で、特に昭和45年以降最近の良い建築ができていない。具体的には前川国男の上野文化会館が頂点ではないかという。我々は近代建築を未消化のまま先に進んできてしまっているのではと問いかけているような気がした。

スライドでは、四国高知の若手建築家の住宅作品群も紹介。そして、いわゆる土佐派の最近の活動を楽しそうに説明した。中谷氏は、彼らが素材や手仕事や伝統を活かしながらも何か新しさを模索し、チャレンジしている姿を追い続けているのである。

講演の1時間半は瞬く間に過ぎた。中谷氏は、我々に近代建築の真の意味を知り、現代に生きるものとして質の高いものを創造して欲しいと願っているようであった。

講演は職能としての設計活動を改めて考えさせられる機会となった。

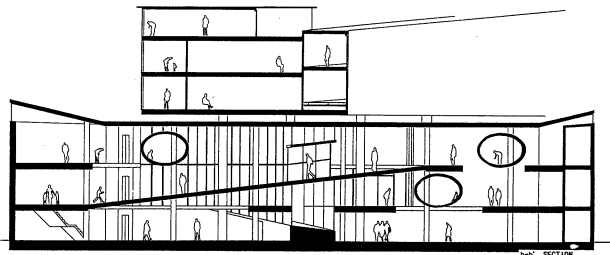


『JIA設立10周年記念大会記録集』申し込み受付!

大会全プログラムを収録。建設工業新聞社発刊。購入希望者はJIA長野県クラブ事務局(☎026-232-3897 Fax026-232-5303)まで(1冊2,100円・税込み)

大学の部

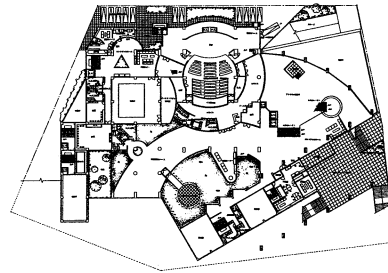
金賞



「…路地の中の図書館」柴山 貴行(信州大学工学部)

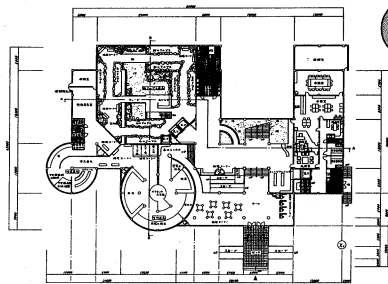
高校の部

金賞



1階平面図

「NEW IIDA CULTURAL HALL」橋爪 賢一(飯田長姫高校)



1階平面図

「下伊那の自然博物館」篠田 尚己(飯田長姫高校)

審査をふりかえって

審査委員長 藤森 照信

まず大学の部から述べよう。金賞は柴山貴行君の『路地の中の図書館』になった。密集した既存市街地を更地にして再開発するのが現在の一般的なやり方だが、柴山君はこれを良しとせず、密集地の中に空隙をつくり、その空隙と路地をたくみに組み合わせ、生かした迷路的な開発を提案した。こうした迷路性は飲食店街や市場にはしばしば見られるが、それを市民図書館に応用したところにユニークさがある。加えて、上層階を既存市街地の屋根の上に持ち上げるように置き、こちらは迷路的ではなく簡明な箱型としたのも、優れたやり方と言えよう。

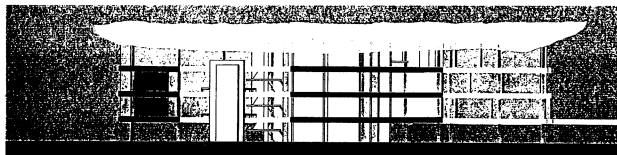
銀賞は長沢正行君の『雲の上へ行こう』と長塚久仁子さんの『ともに住むかたち』の2作が候補となり、審議

銀賞

銅賞



「ともに住むかたち」長塚久仁子（信州大学工学部）

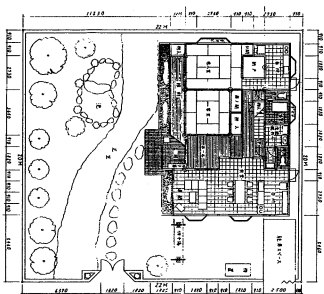


「雲の上へ行こう」長沢 正行（信州大学工学部）

学生卒業設計コンクール '98

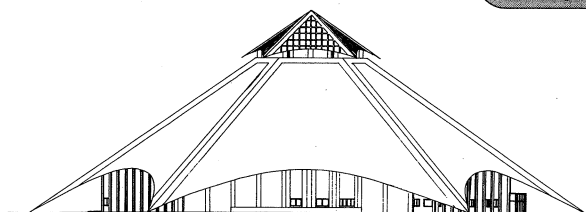
銀賞

銅賞



1階平面図

「二階建専用住宅」山崎 愛沙（上田千曲高校）

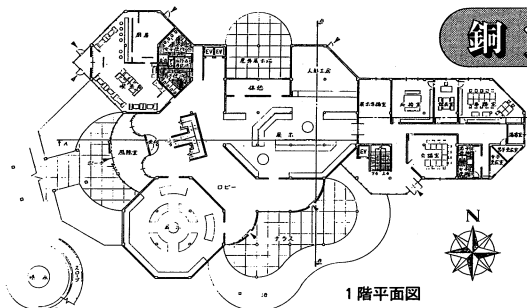


北立面図

「美術館」樋口 啓介（池田工業高校）

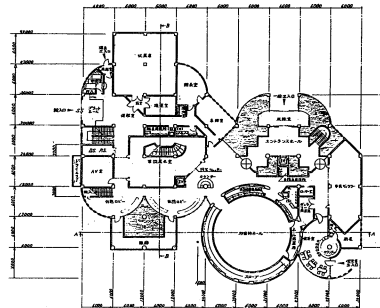
銅賞

銅賞



1階平面図

「上郷人形博物館」橋立 伸明（飯田長姫高校）



1階平面図

「美術館」石井 洋尊（長野工業高校）

の結果、長塚さんは銀賞、長沢君は銅賞となった。

長沢君の“雲の上へ行こう”というコンセプトはとても魅力的で、これをどう建築として実体化するか楽しみで、期待して図面を見たが、うまくいってはいなかった。構造、動線などの現実的なことはあまり気にせず、設計を進めた方がよかったかもしれない。

長塚さんの『ともに住むかたち』は阪神大震災の仮設住宅の後に造る集合住宅の計画で、まずテーマの選び方が高く評価された。集合住宅の設計は、旧住人のコミュニティ性や生活状況によく配慮してあり、全体としてバランスのいいものである。

大学の部は、例年と同レベルと言ってよく、これをどう突破し、もう一段向上させるかが、大きな課題と言えよう。こうした足踏み状態は、全国の大学に共通しているだけに、長野県からその突破口が開かれれば、うれしいのだが。

続いて高校の部について。机の上に並べられた図面を

一目見て、審査員一同目を見張った。例年にはないオーラが立ち上がっているのが感じられたのである。粗削りで細部には難はあるが、力を込めて設計に立ち向かうその熱気が、審査員の心を打った。

熱気の核となっていたのは橋爪賢一君の『NEW IID A CULTURAL HALL』と篠田尚己君の『下伊那の自然博物館』の2作。平面計画における各室の機能の配置、外観デザイン、図面表現力、いずれも例年のレベルを越えており、「製図」から「設計」へと脱皮していた。よって両者に金賞が与えられた。

銀賞は山崎愛沙さんの『二階建専用住宅』。平面の素直さが評価されたが、住宅は例年のことながら、ワンパターン化しており、その突破が望まれる。

銅賞は橋立伸明君の『上郷人形博物館』、樋口啓介君の『美術館』、石井洋尊君の『美術館』の3作。

高校の部においてはこの勢いを来年も保ち、大学の部においてはさらなる向上が期待される。

クラブインサイド

第1回幹事会

須田 考雄

4月20日開催。各委員会、本部、支部報告。会員入退会の承認。総会スケジュール、式次第、議事、学生卒業設計コンクール'98、記念講演、役員改選報告。(仮称)「信州建築家カタログ作成特別委員会」は実施に向け会員委員会の中に「建築家カタログ作成部会」と位置付けた。

学生卒業設計コンクール'98審査会

上村 保弘

4月20日、松本駅前会館で開催。大学、高校、各部門の入賞作品を決めた。応募数は大学の部が8件、高校の部が13件。審査員は昨年と同じ。事業委員会では、来年度に向け、新潟県・群馬県のメンバーと協力し、コンクールの更に発展した形を模索していく。

第2回幹事会

関 邦 則

5月12日、山王共済会館で開催。賛助会退会者が出ているので、できる限り維持に努める。新しい委員会構成について活動の活性化につながる内容にしたいとの意見があり、正副会長会で検討することになった。

'98通常総会

関 邦 則

5月12日、長野市の山王共済会館で開催。出席正会員26名、委任状出席39名。服部範二新支部長と高野事務局長をご来賓としてお迎えし、'97事業報告と収支決算、'98事業計画と収支予算及び新役員選任を承認して無事終了した。続く学生卒業設計作品コンクール表彰式では、大学・高校合わせて9名の学生に、今回から新体裁となった手づくりの表彰状と記念品を贈呈。藤森照信審査委員長からは高校生のレベルが向上したとの講評があった。記念講演会は元新建築編集長の中谷正人氏をお招きして、「近代建築の流れとこれからの方向」というテーマでスライドをたくさん見ながら貴重なお話をうかがった。集まった学生たちにも分かりやすかったのではないかと思います。懇親パーティーも盛大で、場所を変えての二次会にも多くのメンバーが集まって遅くまで話しに花が咲いた。

第1回正副会長会

出 澤 潔

5月22日午後4時からカミムラ建築研究室で開催しました。先の幹事会で、新年度の委員会構成についてさまざまなご意見があり、それらを踏まえた委員会構成と事業スケジュールの検討が主な課題でした。各行事についての意見交換も行われ、効果的な事業活動を展開するためにどうしたらよいか話し合いました。4時間にも及ぶ長時間の会議のなかに、皆さんの会への思い入れを強く感じました。

クラブアウトサイド

第1回地域サミット

出 澤 潔

4月23日、関東甲信越支部各地域会代表及び支部幹事を含めて開催。従来の地域幹事連絡会議に代わるものとして位置づけられたもので、各地域会の現状・支部への要望などについて積極的に意見を交わした。

第2回支部総務委員会

高 橋 重 徳

5月13日開催。財務問題(97年度決算、98年度予算)、本年度委員会活動方針について検討。委員会活動については、支部の方針に従い、幹事数を見直し、役員組織の在り方について10月中旬までに素案を提出。東京地域会についても引き続き検討する。

'98支部通常総会

関 邦 則

5月20日、JIA館3階のセミナールームにて開催。当クラブからは出澤会長と高橋副会長、関の3名が出席。議案審議終了後、斎藤孝彦前支部長に感謝状を差し上げて閉幕。直前に行われた第2回役員会では委員会構成の承認等があり、村尾新会長の事業計画案についての説明もあった。

全国地域会合同会議

出 澤 潔

5月28日開催。村尾会長、穂積前会長、各支部支部長、全国各地域会代表が参加し、地域会の抱えている問題、JIAへの要望などについて議論した。初めての試みのためか、やや消化不良の感じがあり、時間不足を残念がる声も多数聞かれた。

第2回地域サミット

出 澤 潔

6月13日、横浜で開催。アーキテックガーデン'98、学生卒業設計コンクールの現状、地域会会員の資格問題(住所か勤務地か)などについて討議された。

— 新入会員紹介 —

賛助会員

酒井ガラス建材(株) (飯田市)



編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市大字南長野字
宮東426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作 成 新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。